

アメリカの大学における 学生情報の収集・分析とIR

東京大学大学総合教育研究センター教授

小林雅之

こばやし・まさゆき

1953年生まれ。東京大学大学院教育学研究科博士課程単位修得退学。放送大学教養学部助教授などを経て現職。博士(教育学)。専攻は教育社会学。主な編著書に『世界の教育』(共著、放送大学教育振興会)、『進学格差』(ちくま新書)、『大学進学の手帳』(東京大学出版会)など。



標準化された調査で データを交換

アメリカの多くの大学では、さまざまな学生調査を実施し、大学教育や学習環境の改善、さらには学生の生活環境の改善に活用している。在学時だけでなく、入学以前の情報も収集し、入学者選抜および入学後の教育改善に活用する点は特に注目される。

入学前のデータとしては、例えば、SATと並ぶ一般的な大学進学適性テ

ストであるACTの中に、学生プロフィールというセクションがある(本誌2011年4-5月号18ページ参照)。ここでは、テストの成績だけでなく、志願者の特性(高校の成績、高校での活動、出身地、志願理由など)や興味・関心、ニーズ、入学後の計画、教科外活動計画等、詳細なデータを収集している。

一方、入学後のアンケート調査は、さまざまな種類のものが実施されている。標準化された汎用性のあるアン

ケートとしては、カリフォルニア大学ロサンゼルス校(UCLA)の高等教育研究所が実施

するCIRP(Cooperative Institutional Research Program)の大学生調査や、インディアナ大学中等後教育研究所の全国学生活動調査のNSSE(National Survey of Student Engagement)などがある。これらの調査内容は、高校の学業成績、学習態度、教科外活動などの入学前の特性、大学での学習活動、学習態度、満足度、学習成果(アウトカム)、進路希望などである。これらは、各大学に有料で提供される学生調査であり、他の大学と比較可能な点が売りになっている。

これに対して、特定のタイプの大学の学生に特化した調査もいくつかある。例えば、カリフォルニア大学バークレー校の研究大学における学生経験調査SERU(Student Experience in the Research University)は、どの大学でも参加できるわけではなく、コンソーシアムに所属する研究大学のみ参加できる。

高等教育財政コンソーシアムCOFHE(Consortium on Financing Higher Education)の卒業生調査も

このタイプに属する。きわめて選抜性の高い私立大学のコンソーシアムであるCOFHEは、1971年の結成以来、31大学のみが加盟している。いわゆるアイビーリーグの大学とシカゴ、ノースウェスタン、スタンフォードなどの研究大学、およびリベラルアーツカレッジからなり、学生調査だけではなく、さまざまなデータを加盟校間で交換している。同様の例として、アメリカ大学協会(Association of American Universities)のデータ交換システムがある。また、公立大学が参加している説明責任のボランティア・システム(voluntary system of accountability)の下位システムであるカレッジ・ポートレートでも、大学間でデータの交換がなされる。

学習成果を測定する学生テストにも、さまざまな種類がある。代表的なものとしては、カレッジ学習アセスメントCLA(Collegiate Learning Assessment)や学業実力進歩測定MAPP(Measure of Academic Proficiency and Progress)などがある。

このように、アメリカの大学では、志願者や在学生に関するさまざまな情報を、アンケート調査などから収集している。リッチモンド大学の場合、学生の経験に関する情報として、図表1のようなデータが収集されている。図表2は、同大学が収集・分析しているデータをデータソース別に示した。

奨学金と成績の関係から 募集戦略を検討

学生に関するさまざまな情報の収集と分析を行うのが、IR(Institutional Research)である。アメリカのほとんどの大学では、このための組織として、IRオフィスを設置している。IRオフィスは、学生調査等によって学生

図表3 ギルフォード大学におけるベンチマークの例

比較指標	大学の2010年度目標	直近値	ピア校(14校)平均		到達目標値
			レンジ (最小値-最大値)	順位 (14校中)	
伝統的な学生数	1500	1243	1788 683-3054	6	1987
非伝統的な学生数	1700	858	651 113-1860	5	85
初年次の進級(定着)率 (伝統的な学生)	80%	76%	80% 67-93%	11	86%
SATの平均点	1245	1145	1122		1256
高校の成績上位10%において 伝統的な学生の占める比率	25%	14%	33% 20-44%	6	40%

※ギルフォード大学の資料を基に筆者が作成 ※「ピア校」は、自学にとっての比較対象大学
※「到達目標値」は、ギルフォード大学の到達目標値 ※「伝統的な学生」は18-24歳の学生

日本の大学に求められる 情報の体系的分析

IRオフィスがどこまでの役割を持っているかは、大学によってかなり異なる。単なる情報の収集や分析だけの役割、それに加えて、情報を大学ウェブサイトなどで公表する(Factsと呼ばれることが多い)役割、他の大学とのベンチマークを行う役割、予算計画や戦略的計画を策定する役割の一部または全部を担うなどさまざまな役割がある。また、学生情報の収集・分析と学生調査は別の組織で行っている大学もあるなど、IR機能にかかわる組織の構成も様々ではない。このため、名称も大学によってかなり異なる。

いずれにせよ、アメリカの大学では、入学前から、在学中、卒業時、さらに卒業後の学生の情報を一貫して収集し分析することによって、大学教育、学習環境、学生の生活環境の向上を図っている。日本の大学でもこれらの情報は収集されているが、別々の部署で収集され、体系的に分析されていない点、アメリカの大学と大きく異なっていると思われる。教育情報の公表が義務化されたことから、こうした情報の活用が急務と言えるだろう。

図表1 リッチモンド大学が収集する学生(卒業生)の経験に関するデータ

指標	データソース
新入生の進級率	全米教育統計局の公表データ
大学をもう一度選択できると仮定した場合に、リッチモンド大学を選択する新入生の割合	学生の標準アンケート調査
NSSEのベンチマークにおける「学習環境」および「キャンパス環境」の点数	学生の標準アンケート調査
1種類以上の経験型学習(例:インターンシップ、留学)に参加した卒業生の割合	卒業生の標準アンケート調査
学部での経験全体に関して非常に満足した卒業生の割合	卒業生の標準アンケート調査
卒業生の6か月後の就労率	卒業生の標準アンケート調査
卒業後5年の時点で学部での経験に満足していた卒業生の割合	卒業生の学内アンケート調査

※リッチモンド大学資料を基に筆者が作成

図表2 リッチモンド大学が収集する学生データの例

データソース	データの種類
政府・コンソーシアム	公表データ ・入学志願者 ・財務データ
学外機関	標準アンケート調査の結果 ・詳細は図表1参照
学内	学外データが入手できない場合 ・大学独自のアンケート結果 ・履修状況、成績

※リッチモンド大学資料を基に筆者が作成